

アイアム

「アイアム」ってご存じですか？

Vol.

38

～自分の考えを自分の言葉で話す、そんな生き方がしたい～
…そんな意味を込めて



平成19年度「男女共同参画社会づくり」小・中学生 図画・ポスターコンクール
中学生の部 金賞

ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を考える

日本の少子高齢社会が急速に進むなか、国の指針として、これからの時代に対応するには、「ワーク・ライフ・バランス」の推進が必要と考え、この方針が策定されました。やりがいのある仕事と、充実した私生活があり、多様性を認め合いながら自分の能力を発揮出来る社会を実現しようとの取り組みです。

今回、このようなライフスタイルを先駆けて実行している2組のご夫婦と、4人の方々にその生活の様様や、考え方をうかがいました。皆さんは、それぞれ異なった職業や立場にあっても互いに助け合い、よい家庭を築き、地域にも輪をひろげたいという心で通じあっていました。ご紹介します。

子育てとワーク・ライフ・バランスに関するトーク

Part 1

転勤族は夫が頼り

和泉(夫) 転勤族なので全国を転々としています。遅くにできた子どもなので、時間があれば育児をしたくて、今は子どもにべったりです。子育てはおもしろく、育児をしないことはもったいないと思います。

宮本(夫) 我が家は子どもが3人なので洗濯物がすごいです。とりあえず洗濯をすることで、妻の負担を少しでも軽くしたいと思っています。

宮本(妻) 家事もしてほしいとは言いませんが、何でもが当たり前になると、「ありがとう」ぐらい言ってもらいたい時がありますね。

和泉(夫) 土日の休みに子どもに接しているのですが、育児とは大変ハードな仕事ですね。専業主婦が毎日育児や家事をしていると、ストレスが溜まるだろうと思います。

和泉(妻) 夫が、土日に子どもを外に連れ出してくれると、自分ひとりの時間ができとても助かります。転勤族は周りに頼る人がいないので、夫に感謝しています。

子育て支援センターは貴重な場所

宮本(妻) 現在は育児休業がとりやすくなり、3人目の時は3年近くとることができました。その時、専業主婦は息抜きができなくて大変だと思いました。職場に戻ったら次々と仕事があり、かえって子育てのストレスは軽くなりました。

和泉(妻) 働きながら3人も子育てされているのはすごいですね。転勤先の孤独は男性よりも女性の方がきつと思います。そういうことで夫にあたることがありました。私は、子育て支援センターを利用することにより友達もでき、育児のこと以外にもいろいろ話すことで、ストレスが減りました。大変貴重な場所です。福井は子育ての環境としてはとてもよいですね。

宮本(夫) 孤独感から子どもの虐待に走るというのは、わからないではないですね。自分を追い詰めてしまうでしょう。

和泉(夫) 福井は周りの人が、子どもを気にかけて面倒を見てくれるところがいいですね。電車に乗っていても子どもに声をかけてくれますが、圧倒的に女性が多いです。男性は仕事のし過ぎで気がまわらないのですかね。



和泉(妻) 支援センターに孫を連れてきている人を見るといいなと思います。うちは減りに祖父母に会えないので、うらやましいです。

和泉(夫) 私どもは、子育て支援センターに助けられていますよ。子どもが他の子どもや父母以外の大人に接することで、とてもよい刺激を受けていいですね。今は家族の形態がたいへん多様化しています。転勤族は子どもが学校へ行く頃になると、時にはいじめの問題が出てきて、元のところに戻りたいといい、父親は単身赴任になることもあるようです。まさに子育て弱者と言いたいです。

育てよう。子どもの強い生きる力を
重要な子育て支援センターの役割
地域で助け合う環境づくりを

和泉 融さん
会社員

和泉 幸子さん
主婦

子ども1人
……2歳(1男)



宮本 昌輝さん
自営

宮本 香織さん
公務員

子ども3人
…小4、小2、4歳
(2男1女)

育児によりはじめて得られた充実感

和泉(夫) 仕事と育児のどちらをとるかと言われれば育児ですが、仕事を捨てるわけにはいかないので、そのバランスを一生懸命とっています。

宮本(夫) 6年間サラリーマンをしましたが、帰りたくても帰れないのが日本の社会。今は自営業ですが、週休2日ではなく祝日も仕事をする事があります。

和泉(夫) 東京では、通勤に1時間、22時過ぎまで仕事をしましたが、オムツ替えもしました。楽しくて仕方がなかったです。

和泉(妻) 帰宅が遅くなってもお風呂に入れてもらったりしていました。

宮本(妻) 女性はお腹の大きくなったときから母性が生まれますが、男性は子どもが相手になってくれる頃に父性ができるようです。子どもに接する時間が多いほど、子どもの成長がわかっておもしろいですよ。

和泉(夫) 核家族では生まれたときから育児にかかわらざるを得ないし、夫婦2人で助け合わなければなりません。子どもができて思いましたが、男女共同参画とか言っても、育児があってその上に成り立つものではないですか。そこができないで共同参画も何もないと思います。夫婦2人のときはいつも自由時間で、子どもができ拘束されましたが、かえて充実した時間が過ごせて子どもに感謝しています。



施設を活用し、子どもを通じて地域と繋がる

宮本(妻) 子どもの数が増えれば要領がわかるので手抜きをしていき、楽になっていきます。3人目はほったらかしになりましたが、子どもなりに何でも自分でしょうとします。大人が手をかけすぎて、子どもの危険回避の能力や判断力が落ちるのは困りますね。

和泉(夫) うちはまだ1人なので、あまり大人がかまい過ぎないように気をつけないといけませんね。ところで、福井に来て幸い妻は、寝込んだことがないのですが、子どもを預けなければならない時が来たら困るのではと心配です。転勤者には、そのような情報がとても少ないですね。

宮本(妻) 一時預かりの施設には、「の〜びのび」などがありますよ。その他に子育て支援センターやつどいの広場などがあります。各地区で公民館や児童館を調べて行くのもいいですよ。

和泉(夫) そういうところがあれば助かります。福井は充実しているんですね。



宮本(妻) 親子で地域に繋がることで子ども同士の会話、上下関係などを学ぶことができ、友達への気遣いが生まれるようです。

宮本(夫) 子どもを通じて地域への役割が増え、だんだん出かけることが楽しくなります。

和泉(夫) 「男は仕事だけ」という考え方から、子どもを通じてもっと地域の人と繋がっていくといいですね。

子育て支援が 生活バランスの基本



松本 真弓さん 主婦
子ども2人…2歳、0歳(2女)

岩木 樹子さん 看護師
子ども1人……2歳(1男)



下村 文則さん 自営(保険業)
子ども2人…小5、小2(1男1女)

能登 正敏さん 会社員(印刷業)
子ども4人…中3、中1、小1、3歳(2男2女)

《家庭のこと、子育てのこと》 別居、同居での違いは?

能登

妻は教師で、時間的な自由は妻よりもある僕が4人の子の世話をすることは、日常になっています。妻は、僕より早く家を出て、末の子(3歳)を保育園に送って行き、6時まで迎えに行くのですが、間に合わない時は電話がかかってきて、その場合は、僕が仕事に出ている、即、保育園に行きます。最近は社会事情が悪いので子どもは親にしか渡さないため、昔は両親や近所の人にも気軽に頼めたことが今はできません。母親と同居していますが、精神的に助かっています。家にいてもらえるから子どもが学校から帰っても安心です。ただ、高齢なので、自分たちのことはできるだけ自分たちでやるようにしないと。子どもの数が多いので洗い物が大変。これは、ほとんど僕の仕事です。



松本

去年の秋から同居を始めました。義母は、週2日くらい仕事に行っていますが、それ以外は一緒にいて子どもを見てもらえます。夫は帰りが早い方なので、家族みんなでご飯を食べることができ、また、子どもがお父さん子なので、オムツ替えやお風呂の世話、歯みがきから寝かせるまで、やってくれます。休日は、掃除などもしますね。家に人手がある恵まれた環境といえます。

岩木

看護師という仕事柄、時間が不規則なため、子どもが生まれてから同居を始め、家事も育児も義母にまかせっきりです。子どもが寝ている時間にしか帰れないことが多く、間に合った時は、できる限り、一緒にお風呂に入ったり、一緒に寝たりしています。

見てくれる人がいるという甘えや安心感も自分の中であって遅くなるのかもしれない。夫は、最初は料理もしましたが、同居し始めてからしなくなりました。でも私が管理職になったこともあり、その時々状況に応じてできることはいろいろと手伝ってくれます。今は義母も体が丈夫で心配はいらないのですが、もし、体調をこわしたりした時、夫婦二人で子どもを見ながら仕事も家事もしなくてはならなくなって、本当にできるのかという不安はあります。



下村

家が自宅兼事務所になっていて妻は家で仕事を手伝っています。両親とは別居で、子どもをお風呂に入れたり、歯みがきの世話などが僕の役割です。帰宅時間が不規則なので、子どもと食事はほとんどできませんね。僕は、料理があまりできないんです。特にご飯ものができない。最近はチンで済むから便利だけど、それって味気ない。妻がしばらく家を空けた時があったんですが、かなり大変でした。子どもが小さいと、毎日洗濯しないといけない。ご飯作って食べさせたら、洗わないといけない。洗っているうちに気がついたら子どもが眠くて意識がとぎれかけていて、お風呂わかさないかと、…それが毎日続いて。



《ワーク・ライフ・バランスについて》自分の時間の使い方、見つけ方は？

能 登

時間が自由になるようで、自由にならない。お客さんのことで、日中に処理できなかったことは、夜中にしなければいけない。子どもと食事をし、夜はライフワークの演劇活動に出かけ、子どもが寝る頃から、また仕事の時間です。妻は朝型で、僕は夜型なんです。彼女は、(1日張り詰めてるせいか)9時頃にゼンマイが切れてしまい、夜中の2時・3時に起きて6時頃まで仕事をします。僕は夜の10時から1時、2時頃まで仕事をしたり、自分の好きなことをしたり。そういう生活サイクルがお互いに決まっているので、その時間はじゃましないようにしています。



松 本

自由時間がある時の時間の使い方は、読書ぐらいですね。仕事も何もしていないので、ずっと子どもと一緒にいられて、自由と言えば自由ですが、特に何もしていません。子どもへの手が離れたら、何かしないと・資格とかないので不安です。

岩 木

自由時間といえば、子どもを寝かしつけた後しかないのですが、自分も疲れていて一緒に寝てしまうことが多いですね。あまり遅くなると明日の仕事に差し支えるので、職業柄もっと勉強したいと思っても、その時間がなかなか持てない。職場での研修などは個人の希望で参加できます。半強制的な場合もありますが、「自分が興味を持ったところはどんどん勉強しなさい」という感じです。

下 村

将来のことを考えるとワーク・ライフ・バランスは重要ですね。自営なので、お客さんの希望にあわせて動いていますが、その間、5分、10分とか、空いた時間を上手に使わなければならないと思います。目先の仕事だけに追われず、別の何か、もっと違う目線で見れる自分の中の核みたいなものがないと、将来が不安になるんでしょうね。今、社会がだんだんややこしくなっていて、そのために時間をとられて、自分の余暇がなくなっているような気がします。

《将来のことについて》一番の悩みは？

岩 木

※
学校のことが一番心配、都会のことと思っていた「モンスターペアレント」の問題などが、日常的に福井でも聞かれるようになって、自分の子が学校に入る時はさらにひどくなっているんじゃないかと思うと心配です。夫は「子どもが中学生になったらPTA会長になる」とか意気込んでいますが、家庭だけでしっかりやっけていてもダメなのかなとすごく不安になります。

下 村

うちの子にとっては、「家の規律が一番」。「他の子がやっていることでもおまえはダメだ」というと、子どもの中で一線が引けるんです。「いろんな友だちがいても、攻撃はするな。関わるな。おまえはおまえでやって、自分の価値観を押しつけるな。」と言っています。そして、「俺たちはおまえが一番大事だ」ということもきちんと伝えて、「うちでだめと言われたことは絶対にしないように」といつも言っています。

松 本

学校に上がってからの「いじめ」などが一番心配ですが、今考えてもしょうがない。私は子どもを怒れないので、夫に怒る役になってもらうんです。

能 登

夫婦で役割分担する方がいい。一方が怒ると一方が慰める。でも何で怒られたかを子どもに納得させることがもっと大事。クラスの中には1人か2人、「モンスターペアレント」がいます。そういう理不尽な親には他の親が先生と一緒に立ち向かうという姿勢を見せることが大切。親と先生が協力して子どもを育てるという体制を作っていくといいですね。



※モンスターペアレント(Monster parent)

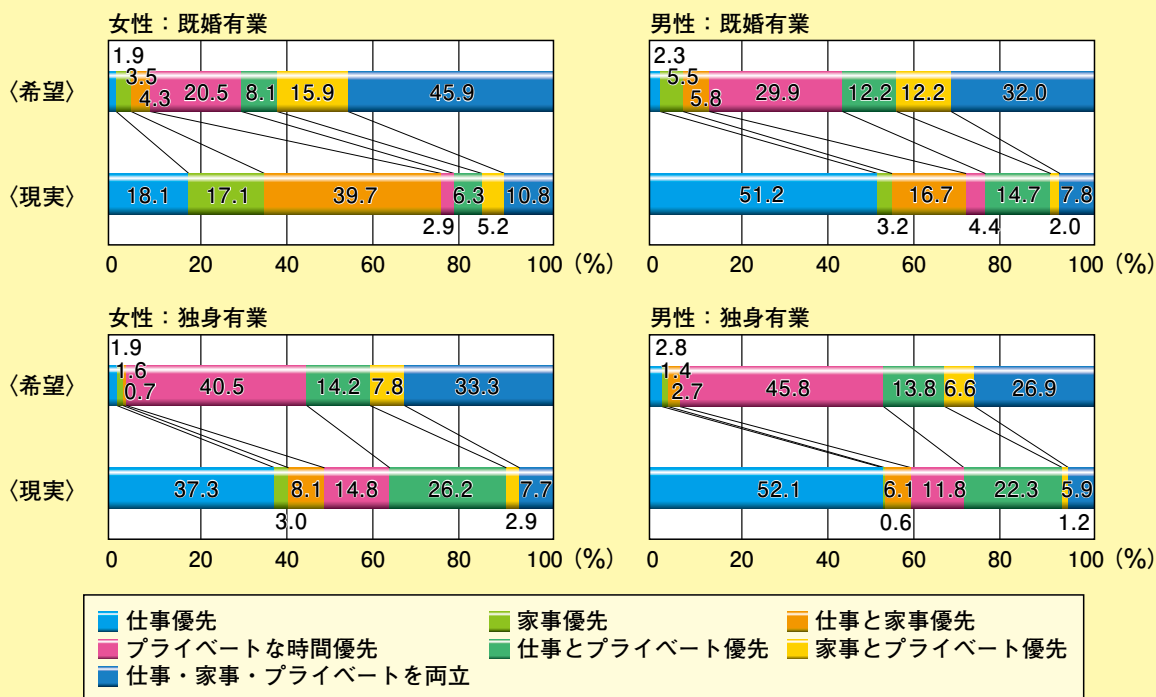
学校に対して自己中心的で理不尽な要求を繰り返し、正常な学校運営を妨げる保護者を意味する和製英語

現実には厳しい仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現について希望する人は多いですが、現実との差はまだまだ大きいようです。特に、男性での「仕事優先」の希望と現実のギャップが目立っています。(既婚有業男性 希望2.3% 現実51.2%)

ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

図 1



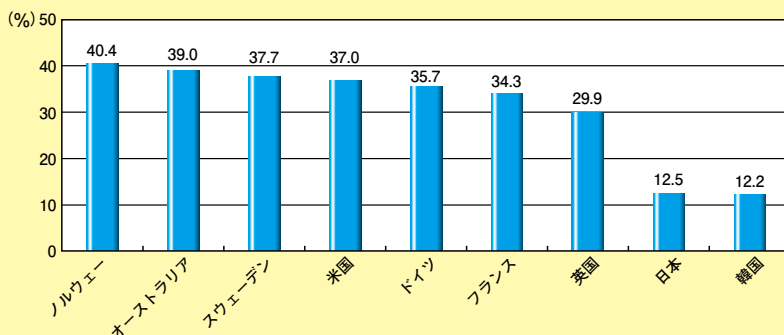
出典：平成19年度版男女共同参画白書

家事、育児時間に占める男性の割合の国際比較では、日本は韓国と並んで目立って低くなっています。(日本 12.5%)

図1の結果からも容易に導き出せることですが、ノルウェーの4割強に比べると差が大きすぎます。

男女計の家事・育児時間に占める男性の割合

図 2



出典：平成19年度版男女共同参画白書

仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)について考えてみませんか

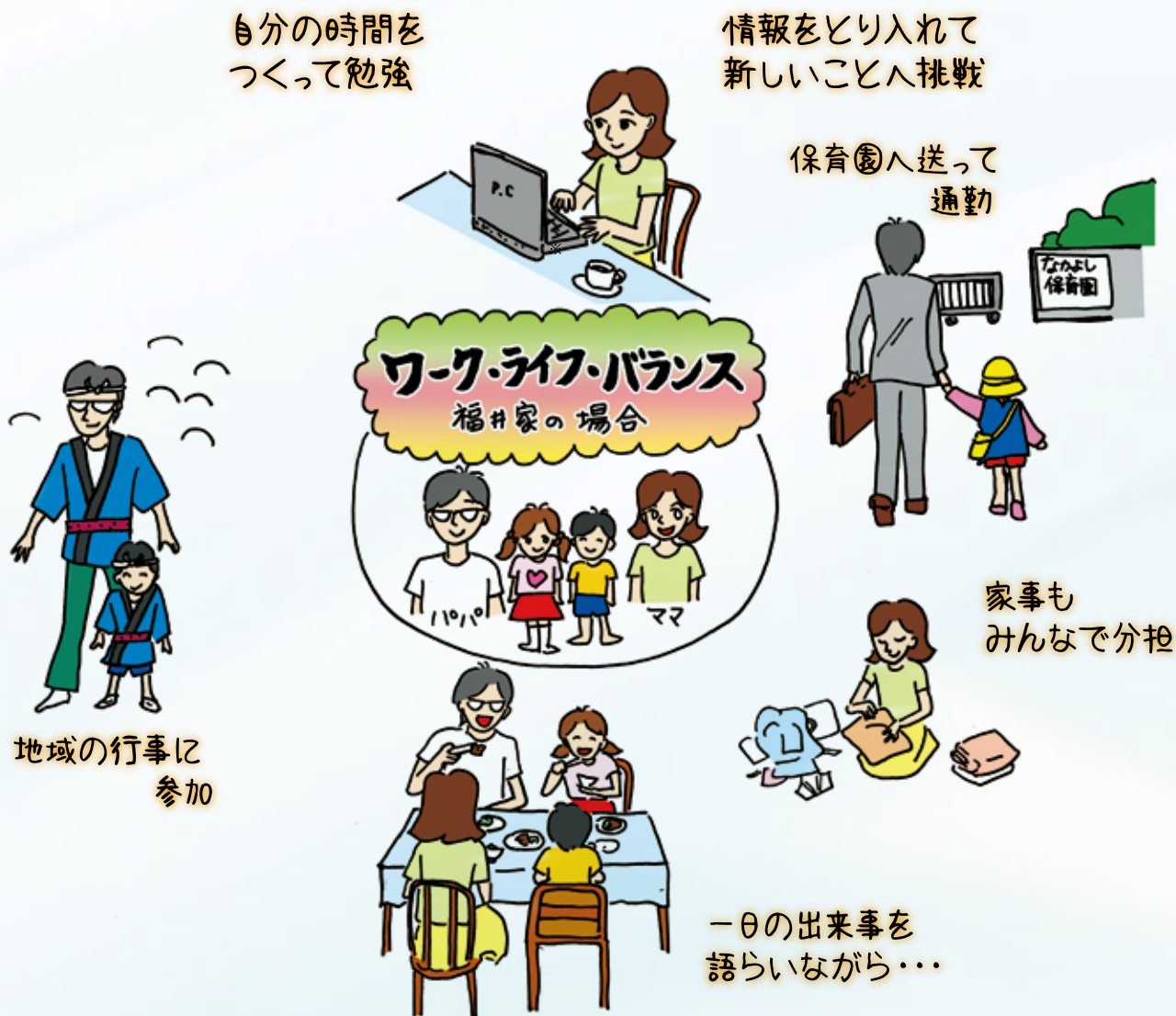
人々の希望が多様化する現在、夫は外で働き妻は家庭を守るべきであるという考え方に過半数の人が反対し、男性も仕事と家事やプライベートを両立したいと希望している人が多くなっています。

しかし、厚生労働省によると現実には、子育て期にある30代男性のおおよそ4人に1人(福井市では平成17年21%)が週60時間以上の長時間労働をしており、その割合はますます増えるようです。これからは、男性も女性も「健康で豊かな生活」をするためにどうしたら良いか、国も社会も家庭も真剣に取り組むことが大切になってきました。

平成19年12月に行われた官民トップ会議では「憲章」や「推進のための行動指針」が作られ、数値目標を立てて、社会全体の状況をつかんで政策に反映させるとしています。

企業は、将来の成長・発展につながる「明日への投資」として、まず女性が子育てをしながら働き続ける環境づくりを急ぎ、パートナーとなる男性も子育てへ積極的に参加する風土をつくること、そして社員のワーク・ライフ・バランスへの一層の配慮が必要です。

また、個人においても職場の意識や職場風土の改革・働き方の改革に自ら取り組む必要があると思われまます。



Book Book Book



退屈力

齋藤 孝 著

発行：(株)文芸春秋 定価：本体720円＋税

齋藤 孝

1960年生まれ。東京大学法学部卒業。同大学大学院教育学研究科博士課程を経て、現在は明治大学文学部教授。著書に「声に出して読みたい日本語」「理想の国語教科書」など多数。

「退屈力」という言葉に興味があって読みすすむうち、今の社会現象に一石を投ずる本だと思った。近年、問題を起こす子どもや若者が多いのは「勉強をしなさいという親のせいではないか」とか、「学歴社会が悪い」とかいわれたりするが、むしろ「勉強しないと大人になってから大変だよ」と著者はいろいろな例を挙げて書いている。ラジオが中心の社会からテレビに家族全員が向き合って生活した昭和30年代以降、ゲーム、パソコン、携帯のネット社会では、刺激の強いものがどんどんエスカレートしてきた。そして刺激のない時間は退屈でなんの価値もないと思うようになる。しかし、著者は退屈こそ思考する力をつけるチャンスだという。テレビゲームより、スポーツや読書や友達とのお喋りの方が思考を高めるからである。もちろん最初から楽しいものではない。ルールや基礎を学ばねばならない。最初は退屈だったけれど途中から充実したものを感ずることができれば、それはもはや退屈ではなくなる。「退屈力」とは外部からの刺激ではなく自分自身で興味を深めていく力なのである。

平成17年度の高校不登校者は6万人(1.65%)、中退者は7万人(2.1%)だという。「自分の思ったように生きればいい」という風潮だが、複雑な社会で仕事や人間関係をこなして生きていけるだろうかと危惧される。著者は子どもの時から「退屈力」を養い知識や思考力を豊かにしてこそ「自分らしく生きる」ことができると説いているのである。

今回の表紙



明倫中学校 3年 岩岡 花多さん

岩岡さんは「家庭」はこれからもずっと大切なものと考え「将来の家庭と社会」というタイトルで応募されました。学校では美術やバドミントンのクラブに所属し、絵を描くことが大好きだそうです。英語も得意で、通訳か翻訳の仕事につきたいと将来の目標を決めているようです。

可愛い犬が4匹もいるので、その世話や家の掃除など家事もしっかり受け持っている明るい少女でした。

パートナーからの暴力ホットライン

夫婦や恋人などからの**身体的暴力・精神的暴力・経済的暴力・社会的暴力・性的暴力・子どもを巻き添えにした暴力**に対し、下記機関があなたを支援します。

福井市男女共同参画・子ども家庭センター 相談室		福井市手寄1-4-1 (アオッサ5階)	0776-20-1541	水曜日～月曜日 <small>(休所日：毎週火曜日、12/29～1/3)</small>	9:00～18:00
支援センター 配偶者暴力被害者	福井県生活学習館(ユウ・アイふくい)	福井市下六条町14-1	0776-41-7111 0776-41-7112	火曜日～日曜日 <small>(第3日曜日、国民の祝日の翌日を除く)</small>	9:00～17:00
	福井県総合福祉相談所女性相談課	福井市光陽2-3-36	0776-24-6261	月曜日～金曜日	8:30～17:30
	福井健康福祉センター 福祉課	福井市西木田2-8-8	0776-36-2857	月曜日～金曜日	8:30～17:30
福井県警察本部 女性被害相談電話		福井市大手3-17-1	0120-292-170 0776-29-2110	月曜日～金曜日	8:30～17:30
女性の人権ホットライン		福井市春山1-1-54 (福井春山合同庁舎)	ゼロナナゼロのホットライン 0570-070-810 <small>(PHS、IP電話からはつながりません)</small>	月曜日～金曜日	8:30～17:15
福井県人権センター		福井市手寄1-4-1 (アオッサ7階)	0776-29-2111	火曜日～金曜日 第2、4日曜日とその前日の土曜日	9:00～17:00
NPO法人 福井被害者支援センター		福井市文京2-13-5	0120-783-892	月曜日～土曜日 <small>(祝祭日を除く)</small>	10:00～16:00

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(DV防止法)があなたを守ります。

編集後記

福井は以前から共働きの多い所ですが、女性の社会進出に対する意識の変化とライフスタイルの多様化により、働く女性や子育て中の男性にとって、現実の環境はととても厳しいようです。若い人たちが仕事と生活の調和をとり、夢を持って豊かな人生を送るためには、家族・地域・企業・行政の支援がいつそう必要かと思われまます。

企画・編集／アトム編集委員

岩木 弥恵子 田中 芳枝
戸出 瞳 畑岡 久子
藤井 輝雄 蓮花 慶子
(50音順)

※この情報誌をご希望の方は、男女共同参画・子ども家庭センターまでご連絡ください。

